

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

- ◎ 人を愛し、人に愛されながら、夢や目標をかなえるために
- 1) 考えを形成し、伝え合うなかで集団の考えを深化・発展させる能力を身につける【知】
 - 2) 他者の考えや思いを受け止めて聴き、寄り添う態度を身につける【徳】
 - 3) 安全で健康的な生活を営むために、基本的な生活習慣を身につける【体】
 - 4) 決まりを理解し、集団のなかで、協働・協調する姿勢を身につける【公】
 - 5) 自身の意思を決定し、意図的・計画的に表現する実践力を身につける【開】

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

<情報活用能力>
<問題発見・解決能力>
<心身ともにたくましく生きる力>

具体化した資質・能力

- ・課題に柔軟に向き合い、主体的に学び続ける子ども
- ・お互いを認め合い、社会とのかかわりを大切にできる子ども
- ・目標に向かってチャレンジし、自信をもって行動できる子ども

中期取組目標

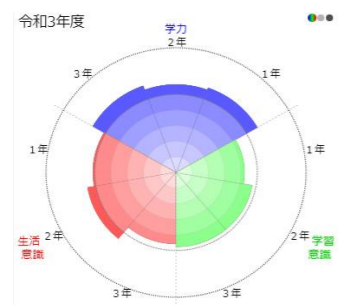
- ・話し合い活動や発表の場等を活用し、生徒が協働しながら学びを深めると共に、個に応じた指導を充実し、主体的に学習に取り組む態度を育てます。
- ・一人ひとりの個性を認め合い、お互いを高め合える力を育成します。
- ・自身の意思を決定するにあたり、情報を目的に応じて分類・整理し、活用する力を育成します。
- ・グローバルな視野を持ち、持続可能な社会の実現に向けて行動する意識を高めます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①授業のねらいと振り返りを提示し、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育てる授業を展開する。 ②学力向上アクションプランの結果や生徒による授業評価の集計結果を基にしながら授業改善を行う。
担当	学習研究部

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童生徒の実態
横浜市学力・学習状況調査では、どの学年もすべての教科ともに市の平均を上回っている。落ち着いた雰囲気の中で授業がおこなわれていることも大きな要因であると思う。反面、学習意識では教科によってばらつきがみられ、市の平均を下回っている項目がみられる。それは、勉強の目的がテストや評価のためになっており、生徒に主体性をもたせる授業となっていないことが課題である。



(2)これまでの学校の取組状況
新学習指導要領についての研修や指導主事を招いた校内研修を行い、評価方法への理解を深めた。また、教科会を定期的に行い、評価のつけ方の共有や意識の共有を積極的に行うと同時に、学習に対して、主体的に取り組む態度の育成方法について教科内、そして教科をまたいだ交流を行い、学校としてどのようにしていくかを考えている。

今年度の目標

生徒が主体的に学習する態度を育てる授業を展開する。

目標を実現するための具体的行動プラン

- ・単元や一単位時間のねらいを明確にし、生徒に目指す資質・能力を理解させる。
- ・単元ごとに小テストを実施し、生徒の学習の定着具合を確かめ、その後の授業展開や指導改善をはかる。
- ・言語活動を積極的に授業に取り入れる授業展開を行い、他者の意見などを聞くことで問題発見や問題解決をする手立てを考えさせる。

上半期

下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①豊かな心の育成を目指し、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育と、道徳科の授業との関連に気づけるような振り返りを行う。②特別活動や総合的な学習の時間を関連させた豊かな体験を通して、他者の考えや思いを受け止めるための話し合い活動を展開する。
担当	学習研究部

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態

質問事項	質問事項					
(12) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか	1	2	3	4	5	6
選択校	67.0	26.3	4.8	1.9		
神奈川県(公立)	70.4	23.4	4.1	2.0		
全国(公立)	74.3	20.7	3.9	1.9		

質問事項	質問事項					
(15) 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	1	2	3	4	5	6
選択校	26.3	49.3	18.7	6.7		
神奈川県(公立)	28.7	45.3	20.6	5.9		
全国(公立)	29.3	45.4	20.9	4.9		

昨年度の全国学力・学習状況調査では上記のような結果が出ている。(12)の質問では「当てはまる」と回答した生徒が全国平均よりも4%下回っている。生徒の自己肯定感を高める取組が必要と考えられる。また、(15)の質問では、概ね他者の意見を受け入れることができると考えるが、「当てはまる」と回答した生徒は全国平均から3%下回っている。

(2)これまでの学校の取組状況
思いやりを持った生徒が多く穏やかで落ち着いた学校生活を送っている。しかしながら、自己中心的な言動を行ったり仲間づくりが苦手な生徒もいる。コミュニケーション能力を育て、人間関係を上手につくっていくようにしたい。また、特別の教科道徳の指導については教科書をベースとした取組を各学年行っているが、総合の時間をはじめとした他教科や行事でも「豊かな心」にフォーカスした取組と振り返りも考えたい。

今年度の目標

道徳教育と関連させた授業展開や行事を行い、生徒の自己肯定感や話し合い活動を通して他者を認める態度を育成する。

目標を実現するための具体的行動プラン

- ・各教科の振り返りの中に4つの視点を意識した項目を入れる。
- ・授業の中で話し合い活動を通して意見交換を行い、自分と違う意見を受け入れる態度を育てる。
- ・行事の振り返りで自己肯定感を高めることができるような質問項目を設定する。

上半期

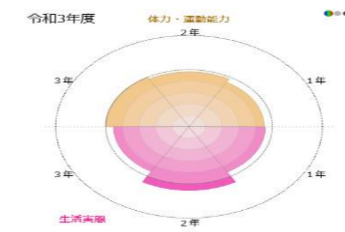
下半期

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①誰もが楽しみながら運動に参加できるよう保健体育科の授業改善を図るとともに、体育的行事や体育活動を生徒が主体になって運営できるようにする。②健康・安全についての理解を深めるために、発達段階に応じた健康教育を計画的に実施する。
担当	保健指導部・保健体育科

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童生徒の実態
1年次は運動の実施状況が低いのが、運動部への加入により、2年次には運動の実施状況が市の平均を上回る傾向がみられる。そのため、競技力、競技結果も向上傾向にある。
・睡眠時間の確保や朝食の摂取等の生活習慣が身につけている生徒が多く、授業への意欲も高い傾向が見られる。



(2)これまでの学校の取組状況
・体育祭や球技大会等の体育的行事を通して主体的に運動に取り組むことができるようにした。
・新体力テストの結果を分析し、学校生活全体を通して、バランスのよい体力向上を目指した。
・成長の段階に合わせた保健学習を行い、心と体の健康や安全を意識した生活が送れるようにした。

今年度の目標

心と体の健康や安全を意識した生活が送れるようにする

目標を実現するための具体的行動プラン

- ・体育祭や球技大会等の体育的行事を通して主体的に運動に取り組むことができるようにする。
- ・新体力テストの結果をもとに、体力向上に向けた運動を選び、実践するための基礎的な知識と態度を育成する。
- ・保健の授業を通して、自己の生活を見直そうとする態度と健康と運動の関連性の基礎的な知識を身に付ける。

上半期

下半期